



SMMA 見験楽学ツアー

【発行・連絡先】

仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局

〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1 (せんだいメディアテーク内)

TEL 022-713-4483 / FAX 022-713-4482

E-mail office@smt.city.sendai.jp



仙台裏道さんぽ

—福島美術館創設者・禎蔵翁の足跡を訪ねて—

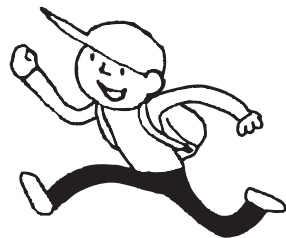
2016年10月29日(土) 10:00~14:00



SMMA
SENDAI MIYAGI MUSEUM ALLIANCE
仙台・宮城ミュージアムアライアンス

持ち物リスト

- ◆歩きやすい靴・服装
- ◆飲みもの
- ◆雨具
- ◆筆記用具



注意事項

- ◆大きな声で話すなど、地域の方に迷惑となる行為は謹んでください。
- ◆ツアールートには、道幅の狭い歩道などもあります。車などには十分注意し、各自責任を持って行動してください。特に、歩きながらのスマートフォンは大変危険ですので控えてください。
- ◆当日の天候などにより、コース内容を変更したり、中止したりすることがあります。
- ◆ツアー参加中のけがや病気、事故などについては、SMMA事務局で加入している保険(レクリエーション傷害保険)の適用内とさせていただきます。

MEMO



見験楽学ツアー 01

仙台裏道さんぽ

—福島美術館創設者・禎蔵翁の足跡を訪ねて—

閑静な住宅街・土樋にたたずむ「街のちいさな美術館・福島美術館」。この美術館の創設者・福島禎蔵(1890～1979)は、実業家であるとともに、福祉と文化の両面から昭和の仙台を支えてきました。このツアーでは、古地図などを手がかりに、土樋・米ヶ袋を散策しながら阿部次郎、本多光太郎ら禎蔵翁ゆかりの財界・文化人の足跡をたどります。

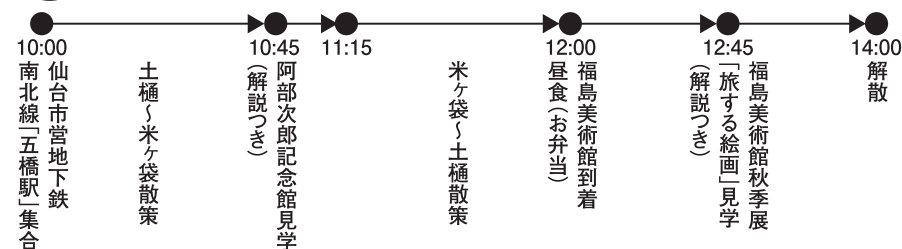
案内人

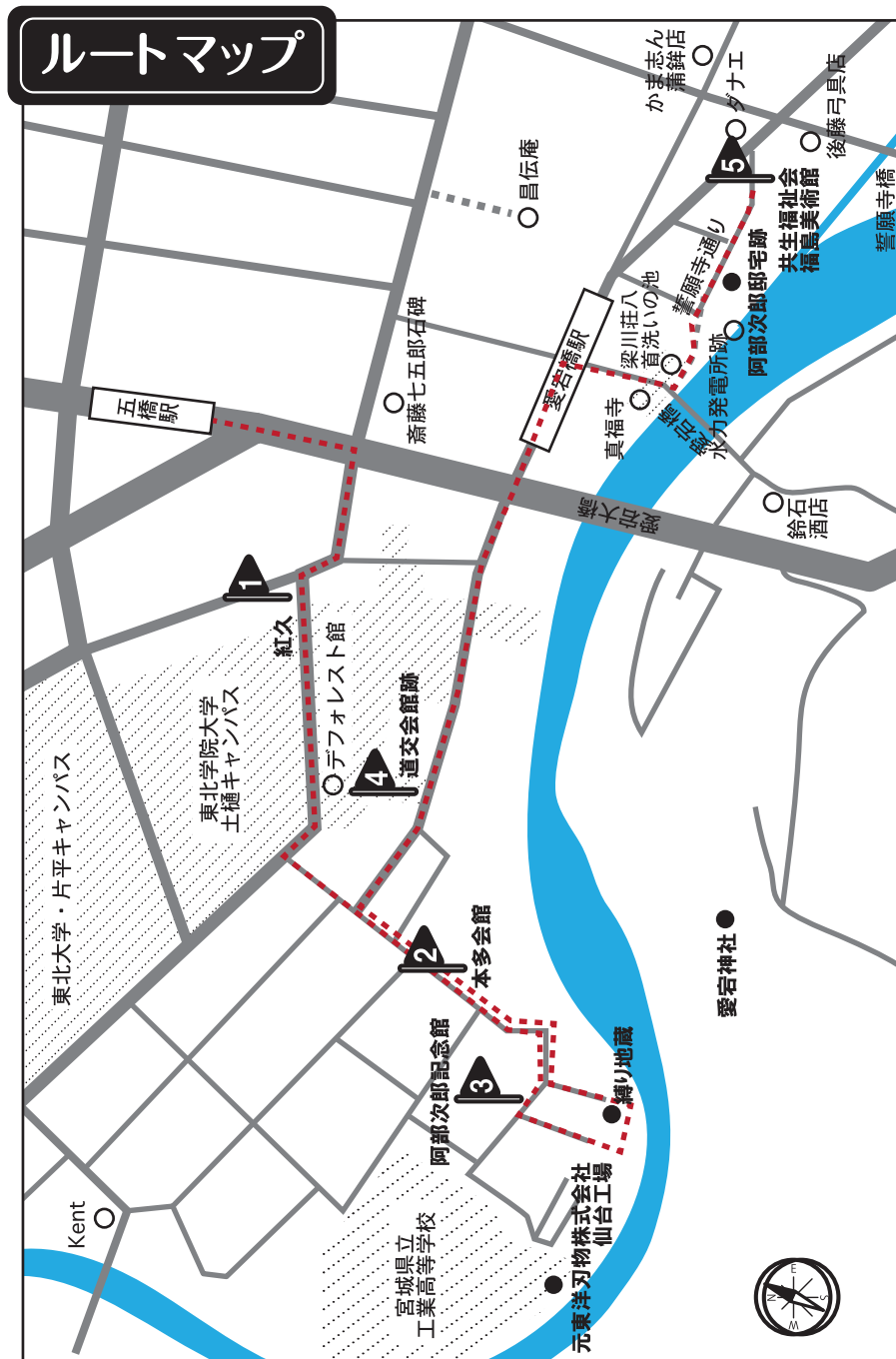
尾暮まゆみ (共生福祉会 福島美術館 学芸員)

宮城県角田市高倉生まれ。1986年3月東北学院大学文学部史学科卒。仙台市博物館解説員を経て、1991年5月より、社会福祉法人共生福祉会が運営する福島美術館の学芸員となり今日に至る。

福島家コレクションである江戸期から戦前までの絵画の他、伊達家関連の書画・工芸品等を管理、整理・研究・保存、啓蒙・普及活動にあたる。また、黄檗文化を紹介する講演等の活動を行っている。

コース





SMMA これからの企画

ミュージアムユニバース ～すてき・ふしぎ・おもしろい～

平成28年12月17日(土)13:00～18:00
12月18日(日)10:00～16:00

SMMAに参加しているミュージアムが、それぞれの「とっておき」とともにせんだいメディアテークに集合します。
ミュージアムの「すてき・ふしぎ・おもしろい」を伝える
さまざまなプログラムに参加して、「知る」ことの楽しさをぜひ体験してください。
ミュージアムのスタッフが会場でお待ちしています。

せんだいメディアテーク1階オープンスクエア
入場無料



共生福祉会 福島美術館 これからの企画

新春吉例 「めでた掛け～祝いのISYOU～」

平成29年1月5日(木)～3月3日(金)
※2月4日(土)より一部展示替えあり

開館から毎年開催している新春吉例「めでた掛け」展。
今年は、暦や人生の節目を祝う画題や模様についてご紹介します。

休館日:毎週月曜日(但し1月9日は開館)
1月10日(火)、2月5日(日)

※駐車場5台完備
※和服来館で入館料100円引き(会期中・割引の併用不可)



佐久間鉄図「高砂図」(部分)

仙台・宮城ミュージアムアライアンス (SMMA)

仙台・宮城地域のさまざまな博物館が共通の知的資源として協働することで、地域にとってより有益な機能を獲得していくための共同事業体です。各館の学芸員や専門職員が持つ知識やノウハウを累積し、分野を横断した連携イベント、学校教育への協力や地域で活動する人材の育成支援、観光資源の開発など、単館では実現困難な新たな価値の創出を行い、地域のニーズに合った新時代のミュージアムとなることを目指して活動しています。

www.smma.jp

SMMA参加館

社会福祉法人共生福祉会 福島美術館



仙台の実業家・福島家3代が収集した作品約3000点を収蔵。伊達家旧蔵品、宮城県や福島家に縁のある作品を元に企画展を開催します。

仙台うみの杜水族館



豊かな日本の海や自然環境を体感できる大水槽、海の生きものたちによる東北最大級のパフォーマンスなど様々なコンテンツを有する水族館です。

せんだい3.11メモリアル交流館



東日本大震災の記憶と経験を媒介に、コミュニケーションを通じて知恵と教訓を紡ぎだし、未来へ、世界へとつないでいく拠点です。

スリーエム仙台市科学館



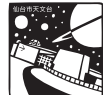
緑豊かな台原森林公園内に建ち、自然史系、理工系、生活系の3つの展示室のほか、岩石や植物の屋外展示もあります。

仙台市縄文の森広場



山田上ノ台遺跡で発掘された縄文時代のムラを、植生環境とともに復元しています。土器づくりなどの体験活動を実施しています。

仙台市天文台



口径1.3mの「ひとみ望遠鏡」やプラネタリウム、天文展示室等を備えた総合天文博物館です。

地底の森ミュージアム(仙台市富沢遺跡保存館)



富沢遺跡から発見された2万年前の人間の生活跡と森林跡を保存し、公開しています。

仙台市博物館



伊達家寄贈文化財をはじめ、仙台に関わる歴史・文化・美術工芸資料等を収蔵し、常設展では随時約1,000点を展示しています。

仙台市八木山動物公園



世界各地に生息する約500点の動物たちを飼育・展示している東北最大の動物園です。

仙台市歴史民俗資料館



県内最古の洋風木造建築である旧陸軍兵舎を利用し、明治時代以降の仙台の歴史と人々の暮らしを紹介しています。

仙台文学館



明治以降の郷土ゆかりの文学者、土井晩翠や島崎藤村をはじめ、井上ひさし初代館長や現在活躍中の作家を紹介しています。

せんだいメディアテーク



図書館、ギャラリー、スタジオ、映像音響ライブラリーなどの機能を備えた、市民の美術や映像文化の活動拠点です。

東北学院大学博物館



東北学院大学の歴史・文化に関する研究成果をもとに、様々な展示・企画を行う大学博物館。学芸員養成の場としての役割も担う。

東北大学総合学術博物館



大学の研究者たちが世界中から集めた珍しい化石や鉱物、土器や石器、骨格標本、有孔虫、サンゴなどを展示しています。

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館



人間国宝(型絵染)で日本を代表する染色工芸家芹沢銈介の作品と、氏が収集した世界の工芸品を紹介しています。

東北福祉大学・鉄道交流ステーション



東北福祉大学が運営する駅前の鉄道資料館。鉄道をテーマにした企画展と模型館を中心に広く一般の方にも大学をご利用いただけます。

見どころ

ツアーの登場人物たち

【福島美術館と福島禎蔵】

福島家は先々代の運蔵(1820-1896)が江戸時代後期に材木商で財をなし、先代の與惣五郎(1864-1938)は仙台の政財界で活躍します。そして、福島家を継いだ禎蔵は祖父・父と同様に文化や産業に深い理解を示し、財産を惜しみなく支援へ投じました。それは、東北帝国農科大学(札幌農学校の前身)でキリスト教を学び(1910)、仙台に帰ってからは、松島・瑞巖寺に参禅したことも関係があるのかもしれません。

禎蔵の活動は様々です。東北の農民を救うために行った「フジビール」の製造販売(1920)、東洋刃物株式会社創設への協力・支援(1925)、仙台NHK放送局の誘致(1923)、司法保護委員活動(1940-1945)、そして晩年70歳を過ぎて、重度身体障害者の福祉施設「共生福祉会」設立(1962)です。

福島美術館は、禎蔵が自身の設立した共生福祉会に寄贈した3000点の福島家美術コレクションを母体とした美術館です(1980年開館)。禎蔵は、障害を持つ者も持たない者も、平等に鑑賞し、そして後世に伝えられるようにと願って寄贈したそうです。

【八木久兵衛(1865～1940)】

土樋の邸宅が福島家と隣同士。八木山ベニーランドや動物園のある八木山は「八木さんの山」が地名となりました。初代当主は、江戸時代に京都から仙台に移り、芭蕉の辻に紅小間物屋「紅久」を興しました。代々・久兵衛を名乗り、5代久兵衛(1865-1940)が1924年に荒廃していた越路山一体を購入・開発しました。それが「八木山」です。

【本多光太郎(1870～1954)】

東北大学金属研究所初代所長(1916)。東北大学総長。「鉄の神様」といわれた本多博士が東洋刃物株式会社(1925)設立を提唱。禎蔵は1923年より七十七銀行常務監査役となっていたおり、早川万一氏(旧早川牧場)





とともに積極的なバックアップを行い、株式会社発足。禎蔵は監査役に就任。本多博士54歳、禎蔵34歳の時でした。

【阿部次郎(1833～1953)】

福島家の土樋邸と阿部次郎の家は数メートルのご近所。禎蔵は阿部次郎に美学哲学を学んだかもしれません。福島家には高浜虚子など近代の歌人の作品や、阿部次郎の短冊などが収蔵されています。また、阿部次郎の教え子・佐藤明(美学者／佐藤丑次郎博士子息)が禎蔵の美術館構想を全面的にバックアップしました。

1

紅久

4代・八木久兵衛は1923年「紅久」を株式会社とし、京都の大工や庭師を招いて、田町(現・五橋二丁目)に埋木材を使った建物と庭園を作りました。現在は角に昭和のレトロ感あふれる純喫茶・ベニーが残っています。また、ここで、味噌醸造業もおこなっていたのも、近くに仙台三名水の「鹿の子清水」があったからともいわれています。

2

本多会館

本多光太郎元東北大学総長の旧邸宅。本多光太郎は1916年に設立された現在の東北大学金属材料研究所の教授および所長、1931年からは東北大学総長も務め、日本の科学技術を牽引します。鉄や金属に関するさまざまな重要な研究を発表し、「鉄の神様」とも呼ばれました。総木造のこの旧邸宅は、本多氏の没後、東北大学の客員の宿泊所や職員集会所としても利用されていました。



3

阿部次郎記念館

当時東北大学文学部教授を務めていた阿部次郎が、日本文化の特質の究明を目的に、1954年に阿部日本文化研究所を設立。阿部次郎の没後、1963年に同研究所の施設と5,000余冊の蔵書の一切が東北大学文学部に寄贈され、それを基礎として東北大学文学部附属日本文化研究施設が発足、日本文化研究施設米ヶ袋分館として利用されることになりました。その後、東北アジア研究センターに改編され、1999年に阿部次郎の没後40周年を記念し、現在の記念館として開館し、現在に至ります。

POINT

現在の駐車場には阿部日本文化研究所設立時の協力者でもあった国語学者として知られる山田孝雄と娘の山田みづえの親子句碑が建てられています。

4

道交会館(青葉区土樋)跡(現 東北学院大敷地)

戦災で焼失した東北大学道交寮(学生寮)に対して、1972年に、福島家が所有していた土樋1丁目の土地1,456㎡を、共生福祉会に寄付し、その地に建物を建設し、道交会へ無期限の無償貸与を行いました。以来、学生寮・仏教道場として活用されてきましたが、老朽化と2011年の震災により、取り壊されました。

